



**第37回日本診療放射線技師学術大会**  
**第23回アジアオーストラレーシア地域診療放射線技師学術大会 (23rd AACRT)**  
**第28回東アジア学術交流大会 (28th EACRT)**



**第5回 東京への道 Go To TOKYO**



**副実行委員長 野口 幸作**  
 (公益社団法人東京都診療放射線技師会)



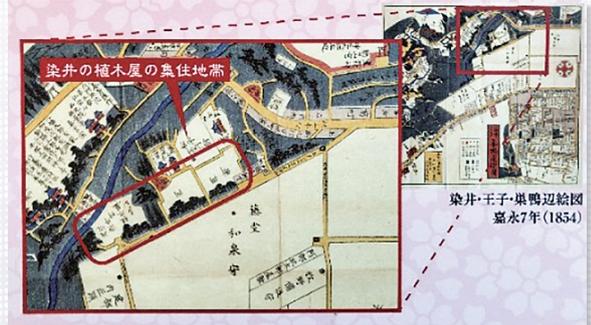
**「秋に満開のサクラを咲かせよう」**

Network Now (NN) のGo To Tokyoの作成に当たり、いろいろ考えた。東京の野菜の紹介、仏寺の案内など悩んだが、いまいち華がない。華？花！桜前線、開花予想など、桜に関する情報が耳に入る頃になってきた。そこで桜について書くことにした。

私の地元、豊島区駒込地区は、桜の代表的な存在である「ソメイヨシノ(染井吉野)」の発祥の地とされている。起源としては諸説あるが、主流として、江戸時代中期～末期に園芸種(母をエドヒガン、父をオオシマザクラとヤマザクラの雑種を交雑してできた、単一の木を原始とする)として生まれ、江戸の染井村の植木屋職人により育成され、葉より先に花が咲き開花が華やかであることが好まれている。花は中輪・一重咲きで、淡紅色の鮮やかな桜である。植木屋の接ぎ木・挿し木によって増やされ(つまりクローン)全国に広がり、アメリカ・ヨーロッパ・中国・韓国へも寄贈されている。



現在、ほぼ日本全域に分布する桜であり、気象庁が沖縄県以東、札幌以西の各地の桜の開花・満開を判断する標本木としている。ちなみに標本木は、沖縄県ではカンヒザクラ、札幌以東・根室以西はオオヤマザクラ、根室はチシマザクラだそうです。



昔の染井村(豊島区郷土資料館蔵を加工)

現在の駒込地区は、植木屋どころではなく住宅街である。通り沿いのソメイヨシノの桜は至る所で、人々に目の保養と心の安らぎを与えている。地域が小学校などの施設へソメイヨシノを提供し、普及活動も行っている。皆さまの近くのソメイヨシノはここから始まったのですよ…と私は言いたい。このNNが公開される頃には、満開の桜のニュースが全国を駆け巡っていることと思われるが、コロナ禍の状況もあり、花見だの、宴会だのと言っている状況ではない。



地域の方々が住宅街の真ん中でソメイヨシノの普及活動を行っている

学術大会の準備も着々と進んでいる。診療放射線技師みんなが楽しめる、with コロナの時代に合った今までにない学術大会にすべく、実行委員全員で心一つに、“東京魂！”を進めている。今年の秋に、東京ビッグサイトの地で学術大会というサクラを満開に咲せるべく奮闘している。ぜひ、皆さまのご参加をお願いしたい。